



株式会社 協和精密工業 代表取締役 石川 光男



## 秋田に 根ざして30年 雇用の創出に貢献

社屋の周囲に広がるのは、緑豊かな里山と田畑。株式会社協和精密工業 秋田工場は、のどかな自然のなかにある。「ものづくりには良い環境が必要。自然が豊かなこの場所だからこそ良い仕事ができる」と石川光男社長。秋田に工場を構えて30年目を迎えた。

### 多品種少量生産でニーズに応える

協和精密工業は、治具（じぐ）、工具、精密部品のメーカーで、本社は東京都町田市にある。現在の大仙市土川に秋田工場を新設したのは1986年のこと。大自然に囲まれた環境を石川社長は絶賛する。「昔、スイスに行ったとき、時計の工房が牧草地の中に建っているのを見て、『空気がきれいで、心む環境だからこそ良い仕事ができる』と感じた。秋田はスイス同様、自然豊かなところ。ものづくりには最高の環境」と力を込める。

同社が得意とするのは、多品種少量生産。設計・製造・検査・仕上・組立・納品を一貫管理するスタイルと、確かな技術、実績が評価され、日本有数の大手企業から高難度の依頼が寄せられることも多い。

### 東京オリンピックの年に創業

創業は1964年10月。オリンピック開催で日本中が盛り上がる中、石川社長を含む3人の若者が、前身である「協和精密工業所」を設立した。

それより前、石川社長は、町田にあるノギスメーカーに11年間勤務。ノギスとは、100分の5ミリ単位までの細かい寸法を測定できる精密な工具。

「当時の職場は、『仕事は目で盗み、肌で感じて覚える』という“職人の世界”。先輩の作業を見て仕事を覚えつつ、本屋で専門書を買ひ、自ら勉強し高みを目指す日々。もっと勉強していろいろな仕事を覚えたいという思いが強かった」。

ある時、石川青年は、より精度の高いノギスの製造方法を思いつく。上司に提案したものの、採用されず

「悔しかった」と語る。その出来事をきっかけに、1つの会社に留まるのではなく「より広い世界で、もっといろいろなことを学びたい」との思いが募り、27歳のときに同い年の同僚2人とともに独立した。「若かったから怖いもの知らずだった。とにかく仕事に燃えていた」。折しも世は高度経済成長期の真っただ中。どんどん仕事が舞い込んだ。

### 人材育成に力を注ぐ

石川社長は断言する。「ものづくりを極めるには、人づくりが肝要。ワンランク上の製品を作るには、まずは人間がワンランクアップしないと」。自身、会社員時代に「学びたい」「視野を広げたい」という欲求を強く感じていた。しかし、当時は学習する場所や機会が少なく、独学するしか道はなかった。それだけに、人材育成には惜しみなく投資する。金属加工や検査

などの技術の習得、パソコンのスキルアップ、リーダー格の養成など、社員は硬軟とりまぜたさまざまな学びの場を与えられている。「将来のものづくりはますますロボットに頼っていくだろう。その中で生き残るには、人間にしかできない仕事を極めるしかない。例えばそれはきめ細やかな対応だったり、“匠の技”と言われるような手作業ならではの高度な技術だったりさまざま。そして、目標を掲げ、積極的に学ぶことで人も会社も成長できる」。目指すのは、さらなる技術の追究であり、昔と変わらぬ職人気質の実直なものづくりだ。

かつては縁もゆかりもなかった秋田。今や秋田工場は地域になくてはならない存在となり、地元の人の多くの暮らしを支えている。⑤



A 設計、製造、仕上げ、組立、検査、納品まで一括管理を行っている。  
B 各種精密部品の製作。  
C お客様のご要望に応える工作機械を揃え、難易度の高い設計に対応している。  
D 精度の高い小径の穴アケが可能。  
E 東京と秋田を往復する日々を送る石川社長。  
F 製品。顧客のニーズに対し、「高品質」「短納期」で応えている。



## 株式会社 協和精密工業

【秋田工場】〒019-2111 秋田県大仙市土川字大野13-2  
Tel.0187-75-2123 Fax.0187-75-0395

【本社・工場】〒194-0213 東京都町田市常磐町3245番地  
Tel.042-797-0717 Fax.042-797-5477

- 設立/昭和39年10月
- 事業内容
- 資本金/4,000万円
- 計測器、ゲージ、治具、工具、精密部品、試作品等の製造・販売
- 従業員/60名